

令和 3 年 5 月 25 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K18601

研究課題名（和文）障害者の親のQOLを高めるための歯科治療における包括的家族支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a comprehensive family support program in dental setting to improve the quality of life of parents with disabilities

研究代表者

村上 旬平（Murakami, Jumpei）

大阪大学・歯学部附属病院・講師

研究者番号：70362689

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,200,000円

研究成果の概要（和文）：大阪大学歯学部附属病院障害者歯科治療部を受診する障害のある子をもつ親のQOL、育児ストレス、感情表出および心理支援ニーズを調査し、心理カウンセリングおよび、講座と対話（親育ち学級）からなる親支援プログラムを構築し、実践した。親が子の支援をうける施設で専門的な心的ケアを受けることが必要であることが示唆され、患者・家族の心的状態改善や医療スタッフの負担軽減などが実現した。また親の面接、対話や講義などを通じ、親に情報提供すること、ピアや専門職と語る場を提供すること、心理士や社会福祉士が継続的にかかわることが、親の心的支援の一助になる可能性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

障害者歯科医療における対話を通じた家族支援は有効かつ意義があることが示され、さらに他職種とのネットワークやチームによる対応が、障害のある人と家族のナラティブ（物語）への理解を深め、障害者歯科医療の補強と質向上につながる可能性が示唆された。

障害のある子を持つ親を、身近な歯科医療機関でケアできるようにすることは、家族の潜在力を引き出し、ウェルビーイングを向上させ、持続可能な社会の構築に貢献すると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The QOL, parenting stress, emotional expression and psychological support needs of parents with children with special needs who visit the Special Care Dentistry, Osaka University Dental Hospital were investigated. We constructed and put into practice a parent support program. It was suggested that parents need to receive specialized mental care at a facility where their children receives support. The mental condition of patients and their families was improved and the burden on medical staff was reduced. In addition, providing information to parents through dialogues and lectures, etc., providing a place to talk with peers and professionals, and continuous involvement of psychologists and social workers may help to care the mental of parents.

研究分野：障害者歯科学

キーワード：障害者歯科 家族支援 対話 心理カウンセリング 学際研究 親支援プログラム

### 1. 研究開始当初の背景

障害のある人とその家族は密接に関係しており、例えば親の心身不調や「生きづらさ」が、家族全体の QOL に直結する。従来から親の育児ストレスと子のう蝕発生の相関が多く報告されているように、障害のある人の口腔も親の心身の状態に影響される可能性が高い。障害のある人の健康を実現するためには、家族によるケアに頼らざるを得ないことが多いことから、家族への支援も必要である。そこで、われわれは以前、学際的な親支援プログラムを実施し、障害者歯科における家族支援の必要性と親が「物語り」「語り合う」ことができる場が重要であることを示したが、さらなる検証が必要な状態であった。

### 2. 研究の目的

今回、さらなる親支援の展開を目指し、障害のある人の親の QOL、ストレス、感情表出および心理支援ニーズを調査し、障害者歯科学、哲学、ジェンダー学、心理学、社会福祉学と看護学による親支援のための学際的なプログラムを開発し、その効果と障害者歯科における家族支援の在り方を検証した。

### 3. 研究の方法

#### 1) 障害のある子をもつ親の QOL、育児ストレス、感情表出および心理支援ニーズ調査

2019年4月から6月に大阪大学歯学部附属病院障害者歯科治療部(以下当部)を受診した患者の親を対象に、受診時に質問紙を配布した。質問紙は、(1)心理支援ニーズに関するアンケート、(2)健康関連 QOL 尺度(SF-12<sup>®</sup>v2)、(3)育児ストレスインデックスショートフォーム(PSI-SF)、(4)感情表出を評定する質問紙 Family Questionnaire(FQ)とした。

#### 2) 心理カウンセリング

当部来院患者とその家族を対象に、公認心理士 A が1時間のセッションを行った。相談内容の一部はクライアントの許可のもと担当医と共有した。評価として(1)診療スタッフへの心理士との連携に関するアンケート、(2)心理学的事例分析を行った。

#### 3) 講座と対話によるセッション(親育ち学級)

当部受診中の小学6年生までの子をもつ親を対象に、2019年6月から翌2月の月1回金曜日の13時半~15時半に、「親育ち学級」と名付けた120分のセッションを、全8回実施した。前半は子育ての対処法、情報提供、技能の獲得を目的とした講座を行い、後半はジェンダー学と臨床哲学の専門家をファシリテーターとして、参加者全員が円形に着座して、対話を行った。評価は、初回セッション前に事前評価、最終セッション終了後に事後評価した。評価には、(1)QOL:SF-12v2、(2)育児ストレス:PSI-SF、(3)EE:FQ および FMSS、(4)口腔内指標:う蝕リスクテスト、唾液緩衝能テスト、(5)ストレス評価:唾液中コルチゾール濃度測定、(6)事後アンケートを用いた。

### 4. 研究成果

#### 1) 心理支援ニーズおよび QOL、育児ストレス、感情表出調査

回答者32名で年齢38~83歳(無回答2名、平均 $56.5 \pm 11.9$ 歳)、続柄は母親30名、父親1名、無回答1名だった。子の年齢は6.3~56.7歳(無回答1名、平均 $28.3 \pm 14.3$ 歳)で男性

25名、女性7名だった。子の属性は自閉スペクトラム症（ASD；知的障害や他の発達障害との重複を含む）17名、ダウン症候群（DS）6名、知的障害（ID；DSや発達障害との重複は含まず）6名、肢体不自由3名だった。育児や生活上の悩みを感じる人は「常に」「よく」をあわせ23%、「たまに」は75%だった。63%が専門機関で心的支援をうけていたが、その多くは子の通う施設であり、自身の心理相談機関を利用していたのは1名のみであった。心理士の援助を強く希望する人はおらず、少し希望する人は47%だったが、そのほとんどが心理士からの声かけを希望した。対象者のQOLは全下位尺度で標準値より低かった。育児ストレスは子の側面が80%ile以上、親の側面と合計が95%ile以上と、高い育児ストレス状態を示した。感情表出はCCでの高EEが1名いたが、その他は全て低EEであった。

## 2) 心理カウンセリングおよび心理士の活動

15名にのべ58回実施した。面接回数別人数は、1回5名、2回3名、5回1名、6回3名、7回1名、8回1名、9回1名だった。当初は成人期の子をもつ親が多く、後に小児期の母親が増えた。いずれのクライアントも話がとぎれず、相談内容は子の行動、子との関わり方、家族の問題や自身のストレスなど多岐にわたった。就労や社会との接点など情報提供を求められた時は、心理士が社会福祉士や担当医から情報収集し対応した。また心理士から担当医に、把握されていない情報や、本人と保護者への見立てが伝えられた。待合や診療時に心理士から親へのかかわりや個別相談を行ったが、担当医交代などで継続的な関わりが困難な例があった。また新型コロナウイルス感染症の拡大後は、中断を余儀なくされた。診療スタッフ9名からのアンケートの回答では、7名が心理士と連携し、患者・家族の心的状態の改善のほか、キャンセル減少や医療スタッフの負担軽減などを報告した。心理学的事例分析からは、医療現場において親と「悩みながら一緒に考える場」「保護者自身のための場や支援者」の存在の重要性が示された。

## 3) 講座と対話によるセッション（親育ち学級）

母親4名（平均年齢41.3歳±4.4）が参加した。子は女子2名、男子2名で、平均年齢9.3歳±1.8、ASD2名、ASDとID1名、DS1名で、全員が早期から福祉サービスを利用し、療育機関や学校等の支援を受けたことがあり、現在週4~6日福祉サービスを利用していた。また社会福祉学、臨床哲学、ジェンダー学や障害者歯科学などの各専門家と当部スタッフ1~2名も参加した。各回の講座テーマ、内容と母親の参加者数を表5に示す。各セッションでは、さまざまな専門機関を活用していてもなお解決できない、分かっているにもかかわらずどうすることもできない悩みや将来への漠然とした不安、家族だからこそ生じる答えのない難しい問いなどについての語りを展開された。

事前評価の結果、FMSSでは境界級EE2名、低EE2名だった。境界級2名のうちSF-12v2は1名がPF-N以外で標準値未満、もう1名が全項目で標準値未満と低QOLだった。PSI-SFは両者とも全て95%ile超と、育児ストレスが高い傾向にあった。事前事後評価の比較では、唾液コルチゾール濃度のみが、有意に減少し、それ以外は有意差がなかった。参加者への事後アンケート結果では、開催方法、講座と対話のいずれも肯定的な意見が多かった。開催時間について早めがいいという要望や、講座のほうが集中できたとの意見があった。

## 4) まとめ

障害者歯科医療における対話を通じた家族支援は有効かつ意義があることが示され、さらに他職種とのネットワークやチームによる対応が、障害のある人と家族のナラティブへの理解を深め、障害者歯科医療の補強と質向上につながる可能性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤代 千晶、村上 旬平、松川 綾子、財間 達也、藤川 順司、秋山 茂久	4. 巻 39
2. 論文標題 1p36欠失症候群の4例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本障害者歯科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 424 ~ 431
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14958/jjsdh.39.424	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根尚弥, 毛利泰士, 中島好明, 安藤早礎, 藤代千晶, 村上旬平, 秋山茂久	4. 巻 40
2. 論文標題 早期体験実習としての障害者支援施設見学での歯学部学生の学び	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 障害者歯科	6. 最初と最後の頁 72 ~ 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山 祐一, 新家 一輝, 高島 遊子, 山崎 あけみ	4. 巻 77
2. 論文標題 特別支援学校卒業後の重症心身障害児とその養育者の生活の安定に寄与する要因	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 243 ~ 252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠川 (谷口) あや、関根 伸一、田中 健司、廣瀬 陽介、村上 旬平、秋山 茂久	4. 巻 40
2. 論文標題 治療非協力患者のう蝕リスク評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本障害者歯科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 162 ~ 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14958/jjsdh.40.162	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 村上 旬平
2. 発表標題 障害者歯科における環境設定 - チェーンブランケットの活用 -
3. 学会等名 第36回日本障害者歯科学会総会および学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山根 尚弥, 中島 好明, 千原 ひかり, 毛利 泰志, 佐伯 直哉, 川原 康秀, 村上 旬平, 秋山 茂久
2. 発表標題 障害のある人と関わった経験が学生の障害者観に及ぼす影響
3. 学会等名 日本障害者歯科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠井 昌樹子, 田辺 亜莉紗, 高橋 明子, 柿原 理奈, 山根 尚弥, 中川 誠仁, 村上 旬平, 菅原 正之, 松田 哲一
2. 発表標題 障害者歯科診療所の移転に伴う患者への影響調査
3. 学会等名 日本障害者歯科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上 旬平, 米倉 裕希子, 高橋 綾, 稲原 美苗, 新家 一輝, 竹中 菜苗, 森崎 志麻, 鬼頭 昭吉, 藤代 千晶, 秋山 茂久.
2. 発表標題 障害者歯科における学際的チームによる親支援の実践.
3. 学会等名 第37回日本障害者歯科学会総会および学術大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	稲原 美苗 (Inahara Minae) (00645997)	神戸大学・人間発達環境学研究所・准教授  (14501)	
研究分担者	竹中 菜苗 (Takenaka Nanae) (20510291)	大阪大学・キャンパスライフ健康支援センター・講師  (14401)	
研究分担者	米倉 裕希子 (Yonekura Yukiko) (80412112)	関西福祉大学・教育学部・准教授  (34525)	
研究分担者	新家 一輝 (Niinomi Kazuteru) (90547564)	名古屋大学・医学系研究科(保健)・准教授  (13901)	
研究分担者	高橋 綾 (Takahashi Aya) (50598787)	大阪大学・COデザインセンター・特任講師(常勤)  (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------